入間地区退職校長会会報

いるま

第41号

令和５年２月１日発行

題字・発行者
会長　比留間 英雄

人たる人の心

副会長　冨士池　長雄

〝今の社会に欠けているのは何？〟と問われた時、まず心に浮かぶのが「豊かな心」の姿です。これだけ科学技術が高度化している時代にもかかわらず、人は余りにも悩み、苦しんでいるからです。家庭生活は元より、社会の姿、国々の関わりを見ても現代の在り方は尋常ではないように感じています。

そんな折、稲盛和夫氏の訃報を知りました。氏は京セラとＫＤＤＩの創業者で、破綻した日本航空の経営再建に尽くされたことで知られています。二〇一〇年二月、経営破綻した日本航空の会長に就き、二年八か月で、再上場に導きました。「官僚以上に官僚的」といわれていた日本航空を変えたのは、創業時に掲げた経営理念〝全従業員の物心両面の幸せ〟でした。

その経営理念は氏が京セラ創業時に、全社員の要求書の労使交渉が三日三晩続き、やっと最後の一人も納得してくれたその晩から、数日間悩みに悩んだ末に会社経営の目的を「全従業員の物心両面の幸福を追求する」としました。翌日社員の前で説明したその時の気持ちは〝私心は一切なしに、みんなのために会社を経営しよう〟との信念で、正正堂堂としておりました。経営者である前に「人として、正しいことは何か」、「世のため人のために役立つことが人間としての最高の行為である」。こう話す稲盛氏の姿勢は国を超え多くの人の心に響いています。

このような稲盛氏の姿勢に触れた時、自身の生きる基軸を得たように感じました。分・器は違いますが、せめて自分の持ち味で、力で、人のために尽くせる生き方、人とともに生きる姿勢を持ち続けたいと思いました。

〝人たる人の心〟を常に忘れず、磨き、高め、悔いを残さない有限人生にしようと心の中で決意し、そっと拳を握りしめたのでした。

今、求められる学力・授業

入間地区小学校長会
会長　井口　修一

私が子どものころは、教科書に書いてあることや、先生が説明したことをひたすら「覚えれば」テストの点数がよくなり、それが自分の最善の学習スタイルだと思っていました。他の子どもも同じように感じ、知識や理解の暗記型の学習が重視されていたように考えます。「覚えること」が最善の「勉強」なのだと。

しかし、中学・高校・大学と進学するにつれ、学習内容が難しくなり、自身の理解の範疇からほど遠くなり、覚えることが増えていくばかりでした。いや、次第に覚えることが不可能になってくるのでした。そのため、今までの学習方法では、テストで期待している結果を残すことは難しくなってきました。そして、教師として社会に出ると、学生時代の教科書や授業内容を丸暗記した内容では、直面する課題を解決できることは、まずありませんでした。

私たち教師は、自分たちが学生時代に最も多く時間を割いたと思われる「暗記型学習」の影響を多分に受けています。したがって、教師は現在の教育が求めている学力観・授業観を持っておかないと、いつの間にか自分が受けた授業と同じような授業をしてしまいがちです。そこで、現在どんな学力が求められているのか、また「主体的・対話的で深い学び」の授業とはどんな授業なのか、学校全体で共有することが何より重要とし、その実践に日々取り組んでいます。

学校で学んだ子どもたちが卒業し働き始める時は、想像する以上に社会は大きく変化しているはずです。今求められている学習（授業）は、そんな社会を生き抜くために必要な資質や能力を育てることを目指しています。その育成につながる「主体的・対話的で深い学び」を子どもたちが身に付けるため、私たち教師は、常に授業改善を続けていかなくてはならないと強く感じます。

（川越市立今成小学校）

協議会 開催される

期日　令和４年11月８日(火)
会場　飯能市市民会館

三年ぶりに開催された今年の教育推進研究協議会は、飯能市退職校長会が担当し、盛大に開催されました。

来賓一名、小学校長二六名、中学校長二一名、退職校長九〇名の一三八名が一堂に会し、三名の研究発表と研究協議が行われました。

開会行事では、比留間会長から関東甲信越で埼玉県のみが、このような研究協議会を開催していることや学校支援のため退職校長にもっと気楽に声を掛けてくださいとの挨拶がありました。また、来賓の井上顧問からは、発表内容を人生の生き方の参考にしてくださいとのお話も頂きました。

挨拶する比留間英雄会長

研究発表では、戸村達男校長から「学校の業務改革　そして働きやすい職場づくり」、伊藤真理子校長から「居場所のある学校づくり」と題して、着実に成果を上げている教育実践の報告がありました。退職校長会の鹿ノ戸功紀氏からは、地元浅羽野地区の歴史をグループで調べ、冊子等にまとめ、地域への広報活動を「行って、見て、知って」と題して報告がありました。

三名の発表は、以下に掲載しました。

比留間会長から、発表内容についての的確で具体的な指導講評を頂きました。また、ご自身の退職後の活動から新しいことを知ることは楽しいことであり、是非この「会報いるま」の「生きがい」の欄を参考にしてほしいとのお話も頂きました。

残念ながら今年はコロナ感染予防のため、例年行われている懇親会は中止となりました。しかし、会場では久しぶりに会う顔に惹かれ、笑顔での歓談の花が、そこかしこにありました。三年間のブランクの大きさを感じました。

文責　飯能班　山下利明

学校の業務改革 そして働きやすい職場づくり

所沢市立所沢小学校
校長　戸村達男

一　本校の概要

児童数　千百十一人
学級数　三十五
県費負担教職員　五十一人
市費負担職員　十一人

二　業務改革の具体的取組

①会議のペーパーレス化
②学年・学級経営案の廃止
③Google formによる学校評価
④Google formによる健康観察
⑤集金を、現金から振り込みへ
⑥習字作品を教室に掲示しない
⑦学校行事の削減
⑧余剰時数の削減
⑨朝の登校時間の見直し
⑩業前活動の廃止
⑪日課表の変更
⑫卒業アルバムの簡略化
⑬校内研修の工夫

三　その他の改善

①環境整備（職員サロンの設置）
②ＰＴＡのスリム化
③積極的な情報提供・情報発信
④管理職のノー残業デー
⑤十九時閉庁
⑥児童・保護者対応
⑦新着任教職員の意見を大切に

四　大切なものは時間をかけて

○年三回のいじめアンケート（全員面談とセットで）
○年間二回の個人面談
○「あゆみ」の所見は大切に
○学年会の時間
○運営委員会での事前検討

五　成果

・不登校児童　全欠○人
・各種学力テスト
　すべて平均を上回る
・教職員のストレスチェック
　良好な結果に

六　おわりに

学校の業務改革は校長の仕事職員を守るのも、校長の仕事

創立150年記念運動会 バルーンリリース

「彩の国教育の日」協賛　教育推進研究

居場所のある学校づくり

狭山市立堀兼中学校
校長　伊藤 真理子

本校の「学校教育目標」は「共に学び、共に伸びる生徒の育成」であり、保護者や地域、公民館との連携を深め「地域に開かれた学校」「地域に根差した学校」に実践をしています。また、教員が自ら授業の改善を図れるように研修を進めており、教員も生徒と共に学び伸びていこうという思いがあります。しかし、数年前から不登校生徒が増えていることが課題でした。そこで、魅力のある学校、居場所がある学校をつくろうと考えました。不登校や休みがちの生徒にも学校生活に希望を持たせ自立する力をつけること、新たな不登校生徒を生まないことを目標に学校づくりを進めました。

学び合い活動

方策は（一）学校組織の確立、教育相談部を中心とした生徒指導体制の活性化（二）居場所づくり①学級経営では、学級の一員であるという自覚を持たせ、見守り、見届ける指導の充実。学校生活・行事での振り返りの中で、個々の頑張りや活躍を見つけ、認めて、自己有用感の高揚②相談室での居場所づくり③別室登校④リモート授業⑤特別支援学級の教室で一緒に授業を受ける⑥廊下での授業参加などです。また（三）心を育てる道徳の実践や（四）授業の工夫。主体的な活動、特に「対話から思考を広げ、学び合う授業」を行います。その中で「できた」「わかった」という楽しさや喜びを得て主体的に学ぶ力をつけています。「学び合う姿」が生徒の人間力、コミュニケーション力を高めます。さらに（五）生徒会では「進化する生徒会・自分で考え、意見を言って、行動する」をスローガンに①いじめゼロ推進②黙々と掃除③質の高いあいさつ④委員会活動の活性化など、自己有用感を持たせる活動を行っています。

行って、見て、知って

退職校長会
坂戸班　鹿ノ戸 功紀

「浅羽野の歴史を知る会」として公民館定期利用団体に登録し活動を始めて十二年が経ちました。

会発足の経緯は、『紅の浅羽野に生きる』（浅羽芳久著）との出会い、最終勤務校が居住地の浅羽野中学校、その後隣りの公民館勤務、人との出会いでした。

『紅の浅羽野に生きる』の中で著者浅羽芳久氏は、静岡県袋井市の浅羽という地に生まれ自身のルーツを調べる中で、埼玉県坂戸市にも同じ浅羽という地があり、両者にはいくつかの共通点があることを知ります。

その一つが、静岡県の浅羽と埼玉県の浅羽に、平安時代から源頼朝の家来として活躍した「浅羽」という武士がいたことでした。

二つ目が、どちらの浅羽も「紅の浅葉の野らに刈る萱の束の間も我を忘らすな」という万葉歌の舞台と主張されていることでした。

埼玉県坂戸市を訪れ調査研究する中で、地元の人々に浅羽氏のことや万葉歌のことを聞いても、残念ながら余り知られていないということを述べていました。

居住地の中学校、公民館勤務の私にとって、これこそが私のやるべきことではないかと会を発足した訳です。

会の一番の目標は、会員の研修はもちろんですが、地域への広報活動でした。研修の成果を冊子にまとめたりパンフレットを作成したりして、地域のみならず、市内公共施設に配布しました。また色々な機会に地元浅羽の歴史を発表できるようにと、パネル展示用写真集や、馴れないパソコンで一時間もののデータを作成し、市民活動フェアや、自治会・公民館の教室での発表等、地元浅羽の歴史の広報活動に努めています。

会のスローガンである「行って、見て、知って」は、そんな会の活動を通して地域の人々に「行って、見て、知って」欲しいという願いからです。今後も機会をみて活動していけたらと思っています。

パネル展示用の写真集の作成

がい

喜寿を迎えて　日々是好日

飯能　小久保　則之

私のライフワークは囲碁・麻雀・ゴルフとたまの釣りとスケッチだ。それに長年連れ添ったカミサンと旨い店の食べ歩きだ。

話はそれるが、今から五十数年も前に、初任給二万八千円で狭山市の中学校に赴任した。あの頃はまだ学校に宿直があった。輪番だったが新任故、先輩の分まで殆んど毎日宿直を頼まれた。生徒がいない夜の校舎は静まり返って怖かった。少しでも遅くまで仲間の先生にいてほしい、そのため欠かせなかったのが碁盤と雀卓、それに傍らには一升瓶だ。そこで覚えたのが囲碁と麻雀。初任者の私にとっては楽しくもあり、厳しくもあった宿直だった。

錦秋の尾瀬ヶ原　正面に至仏山

あの時覚えた囲碁が今、役に立っている。地域の囲碁クラブで活動しながら幹事もしている。日本棋院三段位も取得した。

麻雀に至っては元校長仲間と、やれ脳トレだ、ボケ防止だと言いながら、定期的に楽しんでいる。今は流石に徹マンはやっていない。それに滅多に勝つ事もない。

ゴルフは、始めたのが五十年も前になる。あの頃はやっている人は周りにあまりいなかった。年々体力も衰えて、キャリアの割には百が切れなくてもどかしい。

「飛ばせるクラブ、飛ぶボール、入るパター、何とかならぬか腕と体力」これが最近の心境だ。何はともあれ、スコアより楽しむことが第一だ。

もう一つやっている事がある。この頃足腰も弱くなり、渓流釣りには自信がなくなり、釣り場はもっぱら入間川の上流辺りだ。先月仲間のT氏とハヤとヤマベ釣りで対決した。ここだけの話、いつも勝つのは私の方だ。

写真にあるのは、たまに出掛けた時のスケッチだ。人に見せられるような画ではない。

定年を迎えてから、あっという間に十七年、こんな仲間と元気で会えるのが今一番の楽しみだ。

生きがいは見つけて作ること

入間東部　清水洋志

生きがいは見つけること作ることだと考えてきた。大学卒業後、小学校に就職し、多くの時間を学校で過ごし、その中で多くの生きがいを見つけてきた。子どもたちや先生方と共に作ってきた。少ない時間の中でも、多くの趣味も続けてきた。

スポーツは、野球などの球技から始まり、ジョギング、そして今はウォーキングと、年齢に合わせて取り組んでいる。また、子どもの頃から鉄道マニアで電車に乗り、各地に出かけてきた。今はコロナ禍で自粛中だが、消えつつあるローカル線が廃線になる前に乗ろうと計画している。そして、発売当時から続けているパソコンは、日々進化し、それを追いかけることを楽しみにしている。今もパソコンとスマホを併用しながら新しい変化に挑戦し続けている。ほかにも、多くのことが見つかるだろう。しかし、その時間はない。

今の私は、富士見市の若手教員育成事業の指導員として週四日学校に勤務している。仕事は、一日に二人の先生を担当し、その学級の様子と一時間の授業を見て簡単な評価票にまとめ、放課後に三十分程度話し合うことである。これは、校長の頃、何とか支援してあげたいと思っても、なかなかできなかったことである。多くの先生方は、夢と希望を持って学校に飛び込んでくる。しかし、多くの壁に当たり悩んでいることも多い。そんな若い先生の話を聞き、自らの経験を話し、共に考え、一緒に壁を乗り越え、先生方の笑顔を見ることが、今の私には、大きな生きがいとなっている。

この仕事も間もなく終わる。自由に使える時間は多くなる。これまで少しずつ続けてきたジョギング、ローカル線の旅、パソコンやスマホでの新しい挑戦等ができる。その中で、多くの生きがいを見つけて作ること。今はそんな日々を思い、夢を膨らませている。

若手の先生と研修

生き

地域でボランティア活動

入間　朝妻節子

私は、現職時代多くの方にお世話になったご恩返しに、地元でボランティア活動を始めました。

旧狭山台北小は、十一年前市民大学のある狭山元気プラザになりました。私は、そこで住民主体で立ち上げ運営している『粋・活さろん』で活動しています。

めあては、●ホットな居場所づくり、●認め合い・高め合うチームづくり、●公共機関や他のサロンと連携した、開かれたサロンづくりです。毎週金曜日の十時から三時までは、百円でコーヒー、紅茶緑茶がお替わり自由です。

地域やサークル、市民大学の方、施設の車椅子の方は、折り紙サークルと交流するなど、多くの皆様に利用していただいています。

小学生と交流

スタッフは、五十～九十歳代の十五名。自主参加でミーティング月例会議、研修旅行で共通理解と資質向上を図っています。

読書やおしゃべり、折り紙や手芸など気ままに過ごせます。季節のお菓子を添えてミニコンサートや腹話術、コントなどのイベントも企画しています。夫に急逝された方は、話を聞いてもらえたことで半年後には元気に社会復帰しました。包括支援センターの紹介で来た要支援の方は、スタッフとして受け入れたところ認定解除になりました。

スタッフは、相手の気持ちに寄り添い、傾聴と守秘義務を心がけています。「皆が声をかけてくれる」「ここはホッとするね」という言葉に励まされて、スタッフ自身も楽しんでいます。

コロナ禍で休止中は、電話で利用者へ安否確認。月例会議は公園で実施し、情報交換やモチベーション維持を図りました。

多様な人生を歩んで来られた地域の方からは、学ぶことが沢山あります。今も多くの方々に支えられていることを有難く思います。

子どもたちにとってふるさとであるこの地域で、明るい未来に向けて活動していきたいと思います。

いそがずゆっくり生きる

毛呂山　櫻井保夫

退職してから最後の勤務地である川越市や、初任者として初めて勤務した毛呂山町で教育相談や、社会教育の仕事を六年間務めました。その後は、教育委員会や図書館から依頼される委員や審査員などの仕事に携わり、多くの方々との繋がりが持て、大変幸せであったと感じています。

教頭時代にお世話になった校長先生方との繋がりもあり、人は人との繋がりの中に生きがいを感じるものだと、年齢を重ねるにつれて強く思うようになりました。

この会報が発行される時には、私の干支兎年です。原稿依頼を受け、生きがいと言えるような趣味もなく何を書けばよいか迷っていましたが、「いそがずゆっくり」という言葉をいただいた江戸三十三観音巡りのことを記してみます。

退職した年に、母方の先祖のお墓参りをした時、ふと目に止まった菩提寺の案内板に、境内にある観音様は江戸三十三観音の第十九番札所であることが書かれていました。江戸三十三観音は江戸時代の観音巡礼の一つに起源があり、現在の札所は、廃寺や焼失により新たに制定されたことや歴史、縁起などの話を伺い、ご住職から、「観音様巡りは、全部で三回巡ってください。一回目はご先祖様のため、二回目はご両親のため、そして、三回目はご自分のためにお参りしてください。三十三観音巡りは、急がず、ゆっくりと巡ってください」と言われました。

それがきっかけで、私の三十三観音巡りが始まりました。浅草から巡り始め、打ち納めとなる目黒まで御朱印をいただき健康づくりのためと、寺の歴史や歴史上の人物が埋葬されているお墓などにもお参りかたがた訪れました。当時の文化などにも興味を抱きながらタイムスリップしたような気分で、とても幸せな時間を過ごせました。

最後の一回は、妻と二人で巡ってみたいと思っています。

二回目巡拝　第三十三番「目黒不動尊」

会員の声

また会えた喜び

川越　太田康子

コロナ禍で会うことができない日々が続き、三年が経ちます。ワクチン接種を重ね、コロナウイルスとのつきあい方が板につき、感染者数が減少していった今年の夏頃から、「会いましょう」という連絡が相次ぐようになりました。

小学生からの親友たち、高校の同級生、大学の時のサークル仲間、元同僚、校長会の先輩・後輩たちと、会いたい方々は大勢いました。

その中で、特に嬉しかったのが、教え子との再会でした。三十八歳になる彼らは、各々の分野で活躍している様子で、キラキラ輝いていました。私の息子たちと同年代の彼らは、特に思い入れの強い子どもたちでした。

退職して五年が経った今、自分を振り返りつつ、共に健康で努力を続ける人々から刺激をもらえることに感謝しています。

私の道楽

川越　細谷敏人

学生の頃、小林秀雄氏の『文学と自分』のお蔭で、青年期にありがちな心の閉塞状態から脱出できた。

小林氏と言えば、若い頃はフランスの詩人ランボオをはじめとする西洋の芸術家に深い影響を受けた人だ。しかし、その小林氏が、評論活動の集大成として最晩年に取り組んだのは、本居宣長であった。なぜ、本居宣長なのか。この問いは、四十年来ずっと私の中にある。

書棚では、学生時代から【小林秀雄全集】も静かに時を待っていた。四月から週二日で四か月、【本居宣長】を漸く読み終えた。今は【様々なる意匠】【ランボオ・Xへの手紙】と、氏の思索の跡を一から辿り、再び【本居宣長】を目指している。

現在の仕事である農業と、母の介護の日々にあって、週二日没頭する小林秀雄氏との対話は、私にとって最高の道楽である。

地域の中で

所沢　島田光雄

最後の勤務校では、子ども達の成長に地域の方々の力をたくさん貸していただいた。退職する時、自分も地域に出来ることは、協力しなければと考えていた。

最初に、民生・児童委員になった。生活保護や高齢者の福祉、包括支援センターの役割等理解し、地域を行政に結ぶパイプとして、困っている方の手伝いが出来たら良いと思っている。

次に自治会長の話が来た。これは、最初お断わりしたが、何回もお願いされ、やることになった。

更に、地元の小学校の不登校児童支援員や放課後、算数の補習をしている。また、学校運営連絡協議委員もしている。

これらの活動を通して、地元の知人が増え、毎日やることがあるのは、ありがたいことだと思っている。

よしとしよう

所沢　井関義邦

退職して二年目、まだ学校と関わりながら仕事をさせていただいている。昨年から始めた朝三十分間のストレッチはよい習慣となり、生活のリズムも作りやすくなった。

多聞にもれず、退職と同時に町内会役員の仕事がまわってきた。「（父との）世代交代で」の一言で首を縦に振ってしまった。流れに任せながらついていく状態だが、地域の中に自分たちが出ていく新鮮さを感じる。今年度は「ところざわ祭り」への参加があり、町内会の山車の後手にも付いた。また、地域清掃や地区の体育祭にも役員として関わるようになった。見る側から参加する側へ、こうした変化は、かつての先輩、同僚や教え子との再会の機会にもなっていた。

自分の中の「よしとしよう」という気持ちは、また新しい世界へ引っ張ってくれると信じよう。

調和を持って

狭山　磯野太一

退職後は、約七年間教育や福祉関係の仕事をしていました。

今年度は地元の自治会の役員やボランティアの活動をしています。

在職中は、どうしても仕事中心になってしまい、興味を持つことがあっても自分のことは後回しになることが多かったと思います。

自由な時間が持てるようになり今までできなかったことをしようと考え、小型船舶免許を取得し、非日常を体験しました。好きなゴルフやツーリングも続けています。そして、それらを行う体力を支えるため、軽いトレーニングにも取り組んでいます。

健康な生活を送るために大切なことは、調和を持つことだと改め

て思いました。
　これからも、人との繋がりを大切にしながら、自分なりの調和を探していきたいと思います。

「幸せ」のために

入間　石貝　龍

　退職後の一年間は初任者の指導教員をさせていただきましたが、その後は教育現場から離れ、福祉の仕事に携わるようになり七年が経ちました。福祉の仕事から「幸せ」や「生きかた」について考えると人それぞれです。相手にとって何が最善なのかを理解していくことを大切に、今は相談支援専門員として福祉サービスを必要とする方が上手く利用できるようお手伝いをしています。
　仕事以外では孫たちと一緒に遊び、世話をしながら成長を見守ることで、じぃじとしての生活に「幸せ」を感じています。
　コロナ禍で学校も日々大変ですが、制限がなくなり、学校生活が今までどおり思いっきりできるようになることを願っています。

人生やることあれこれ

日高　金子　博

　退職の年に、まだまだ働けるという思いから、海外日本人学校にシニア派遣で応募し、運よく合格することができました。派遣先はスウェーデン・ストックホルム日本人補習学校でした。補習校ということで、一人で事務職・用務員・講師・指導主事・教頭・校長の仕事をこなさなければならないので大変でしたが、慣れてくるとなかなか楽しいものでした。
　帰国後は、父親の跡を継ぎ市議会議員に・・、これもまた運よく当選することができ、現在に至っています。議員の世界は、教員の世界と全く違い戸惑うことだらけでしたが、地域住民の声を聞き市政に届けることもまた遣り甲斐のある仕事です。異文化体験や、教員以外の人との出会いが日々の成長です。

豊かに

坂戸　菅野治恵

　テレビで放送中の『やまと尼寺精進日記』は、奈良・桜井市の「音羽山観音寺」の日々である。バス停から五十分ひたすら山道を歩き続けた。参拝した十一月、樹齢六百年、県の天然記念物「お葉つき銀杏」の下、御往職が笑顔で迎えてくださった。寺は檀家を持たない。山の恵みと里からの贈り物が夢のような精進料理の御膳となる。祈り、感謝、穏やかな時間。「人のために心や時間を尽くす」豊かな生活がここにある。
　大学生との日々も十年になる。令和二年度、コロナのため授業はすべてオンラインで行った。
　先行き不透明な時代。変化を柔軟に受け止め、読書、旅行、音楽、いろいろな方との会話等を通し、自分らしい生き方を探し、庭に咲く季節の花を育てながら、豊かに生活していきたいと思う。

元気でいるために

鶴ヶ島　山中　伊久枝

　退職後は、毎朝の犬の散歩が日課となっています。今は、五歳になる中型犬と歩いています。
　一年を通し五時起床六時出発を心掛け、夏は太陽を避け緑地帯へ、冬は太陽の温もりを求め田園地帯へと歩みを進めます。朝の清々しい空気を全身に受け、公園等でのラジオ体操、横断歩道は白線を踏まずに歩く。背筋を伸ばしてサッサと歩く等自分に注文を付けて。一日一万歩以上を目指し、朝は、八千歩以上歩く事にしています。他に、趣味の料理やパン・ケーキ作り、ミシンに向かって洋服作り等をしています。作った物を友人知人に上げると、とても喜んでもらえるのが励みになっています。又、食に関する市のボランティアを通し社会との繋がりも保っています。元気でいるために、これからも続けていきたいと思います。

ショパンデビュー

入間東部　大津朋子

　二年前からピアノを習い始めた。家にいる時間が増えたので、何か始めたいと模索した結果、子どものころ習ったピアノを始めることにしたのだ。幸いピアノ教室も家の近くに見つかった。先生は、同年代の女性だ。学生の時、途中になっていた曲から練習を始めた。最初から完璧を求めてくるのが嬉しい。和音はどの音がメロディーなのか考えて弾かねばならぬという。ああ、これが大人の稽古の醍醐味かと思わずふるえる。半年かけて一曲ずつ仕上げた。
　四曲目として先生が選んだ曲は初めてのショパン『ノクターン遺作』だった。実に抒情的な曲だが譜読みもリズムもとても難しい。少し弾けたかと思うと、次の日はもう弾けない。先生にこぼすと、「毎日練習あるのみです」と一言。
　今、ショパンに夢中だ。

作品の窓

俳句

曼珠沙華
川越　鯨井　愛子

圣立ちて簪（かんざし）さすや曼珠沙華
米寿へとつなぐ明日や枯薄
積年の免許返納涼あらた

今日を吟む（俳句日記）
所沢　加藤　匡代

戦火なぜ消せぬ人類の春遠し
「巨星」落つ遊説中や暑き街
原爆忌過ちは断つと鐘は鳴る

結願寺
毛呂山　宮崎　幸泉（幸夫）

蔵の街ゆき交ふ日傘傾げあふ
落日の尾花の栄えや道光寺
お遍路の杖凭れあふ結願寺

夏空
坂戸　眞田　好男

バスを待つ列に加はるサングラス
ホームにも残る暑さや始発待つ
緑風や山の水場の青コップ

川柳

日々
鶴ヶ島　吉澤　泰而

なぜかなぜ分かればなぜと言わぬなぜ
何もない日の幸わせを噛みしめる
ほがらかを杖に千里の夢を追う

八十路旅
越生　比留間　英雄

生き急ぐ必要はなし八十路旅
寿命延び増えた余生をどう生きる
老いの友猫に小説深夜便

HPの調査結果及び県の現況並びに今後の見通し

担当　嶋田　惠一朗

Ⓐ入間支部各班HPの調査結果

㈠県HPを　①閲覧10　②閲覧無し1

㈡開設について　①開設2　②時期尚早2　③開設できない7

㈢班のHP対応（開設2）
①開設着手1（9月に開設）
②準備段階1

㈣班HP内容・項目等　・・・【略】

㈤開設等に係る課題等（順不同）
▼担当者の確保・負担・選考等が困難（2）▼現役員でのHP開設の対応が難しい▼班員が少数・開設の必要性？▼開設に消極的▼支部全体での決定に従います等

（以上、五月の代表理事会で依頼した各班の検討結果である。）

Ⓑ埼玉県退職校長会HPの構成について（令4年HP運用資料から）

県の支部長会・広報部会等では各支部HPに係る情報提供もされ今後の支部・各班の更新等の示唆をいただいている。

◆県退職校長会各支部HPでは

「支部HP」と共に差異はあるが「班HP」の開設が6支部で、未開設4支部（含入間）の「班HP開設」や活動・宣伝の場としての活用が期待されている。

◆いるま支部のホームページ作成は

支部長決済後、担当者が一括して県担当者に送付。WEB上のHP更新作業は全て県本部広報担当で行われている。

Ⓒ今後の各班のHP対応（見通し）

前記ⒶⒷの現況から、代表理事会で各班のHP開設に向け始動を確認。

◆当面の流れ

❶各班HP担当者等の選任❷並行して入間支部からの基本的なHP構成内容等の提示❸各班で資料やデータの作成❹各代表理事の決済を経た後、入間支部HP担当者へ❺県本部広報担当に送付

令和五年四月の開設を目途に代表理事会・各班の連携を密に、出来ることから進めていく。

編集後記

前号当欄で「ご高評を…」とお願いしたところ、数名の方から感想や励ましの言葉をいただきました。改めてその役割と重みを実感したところです。寒い季節の先に春が巡り来るように、コロナ禍の収束を願い皆様のご健勝を祈りつつ本号をお届けします。（久田）

入間地区退職校長会会報　第四十一号
発行　令和五年二月一日
発行者　会長　比留間英雄
越生町成瀬一四一－一
印刷所　六三四堂印刷株式会社